

# 海軍公報

(部内限) 第四千四百三十七號

昭和十八年七月十二日(月)

海軍大臣官房

## ○令達

内令  
要登載

官房備第一四四號ノ三

昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

昭和十八年六月二十三日

海軍大臣

表中第一海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員

「専任」  
「専務」

一人 奏任

「専任」

一人 奏任

十六人 判任

「専任」

十七人 判任

十四人 雇員

「専務」

二十七人 雇員

軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任」三人 判任

「専任」

二人 判任

第五海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「専任」五人 判任

「専任」

十二人 雇員

「専任」十三人 雇員

「専任」

九人 判任

「専任」八人 判任

「専任」

十八人 雇員

「専務」十四人 雇員

官房人機密第三三五號

海軍退職賞與内規左ノ通定ム

昭和十八年七月十日

海軍大臣

### 海軍退職賞與内規

第一條 海軍現役軍人、文官同待遇者、囑託者、雇員

又ハ傭人ニシテ在職中職務ニ精勵シ其ノ成績顯著ナ

ルモノ退職シタルトキハ本内規ニ依リ賞與ヲ行フコ

トヲ得但シ別ニ定ムルモノニ付テハ各其ノ定ムル所

ニ依ル

第二條 退職賞與ハ士官、候補生、見習尉官、高等文

官同待遇者、奏任官待遇以上ノ囑託者及海軍文官進

級増俸取扱規則別表第一號所屬ノ判任文官同待遇者

ニ在リテハ海軍大臣之ヲ行ヒ其ノ他ニ在リテハ所屬

長官配付豫算内ニ於テ之ヲ行フ

第三條 特務士官ニ對シ退職賞與ヲ行ハントスルトキ

海軍公報(部内限) 第四千四百三十七號

昭和十八年七月十二日

七二五

0650

ハ事由ヲ具シ海軍大臣ノ認許ヲ受クベシ(別紙書式第一)但シ賞與額ガ退職當時ノ俸給月額六箇月分ヲ超エザルトキハ此ノ限ニ在ラズ

第四條 所屬長官奏任官待遇以上ノ囑託者ニ對シ退職賞與ヲ行フベキ事由ノ生ジタルトキハ事由ヲ具シ海軍大臣ニ具申スベシ(別紙書式第二)

第五條 所轄長ハ判任文官同待遇者、囑託者、雇員又ハ傭人ニ對シ退職賞與ヲ行フ必要アリト認メタルトキハ事由ヲ具シ所屬長官ニ具申スベシ(別紙書式第二ニ準ズ)

第六條 退職賞與ノ辭令書ハ別紙書式第三ノ例ニ依ル第七條 本内規ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 現役軍人ニ在リテハ離現役
  - 二 文官同待遇者ニ在リテハ免官、退官、失官、退職又ハ海軍部外ヘノ轉官職
  - 三 囑託者ニ在リテハ解囑(有給囑託者ニシテ無報酬ト爲リタルトキハ解囑ト看做ス)
  - 四 雇員ニ在リテハ解雇、傭人ニ在リテハ解傭
- 在職中死亡ノ者ニ付テハ危篤ニ陥リタル日ヲ以テ退職シタルモノト看做ス

第八條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ賞與ヲ支給セザルモノトス

- 一 徵兵(危篤者及公務傷病ニ因ル退職者ヲ除ク)
  - 二 二年現役ノ者(危篤者及公務傷病ニ因ル退職者ヲ除ク)
  - 三 軍人以外ニシテ勤務年數三年未滿ノモノ(危篤者、公務傷病ニ因ル退職者及特ニ定ムルモノヲ除ク)
  - 四 當時一定ノ報酬(俸給ニ相當スルモノ)ヲ受ケザル囑託者
  - 五 海軍刑法又ハ陸軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ退職シタル者但シ過失犯ハ此ノ限ニ在ラズ
  - 六 素行又ハ勤務成績著シク不良ナル爲其ノ他懲戒スベキ行爲ニ起因シ退職セシメラレ又ハ休職ヲ命ゼラレタル者
  - 七 諭旨ニ應ゼザルニ依リ退職セシメラレ又ハ休職ヲ命ゼラレタル者
  - 八 退職ノ際現ニ所在不明ナル者
- 第九條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニハ其ノ情狀ニ依

0651

リ賞與ノ額ヲ減ジ又ハ之ヲ給セザルコトヲ得

一 刑事被告事件ニ依リ起訴セラレタルニ依リ休職ヲ命ゼラレ復職ニ至ラズシテ退職シタル者

二 停職ノ儘退職シタル者

三 素行又ハ勤務成績不良ナル者

四 自企的行爲ニ依リ危篤ニ陥リタル者但シ軍人軍屬タルノ面目ヲ汚スコトナシト認ムベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

五 其ノ他一般精勤者トノ均衡上賞與額ヲ減ジ又ハ支給セザルヲ至當ト認メタル者

第十條 退職賞與ノ金額ハ左ノ各號ニ依ルモノトス

一 軍人及文官同待遇者ニ在リテハ勤務年數滿一年毎ニ退職當時ノ俸給月額ノ十分ノ五ヲ乗ジタル金額以内

二 囑託者及雇員ニ在リテハ勤務年數滿一年毎ニ退職當時ノ報酬又ハ給料月額ノ十分ノ四(日給者ニ在リテハ十二日分)ヲ乗ジタル金額以内

三 傭人ニ在リテハ勤務年數滿一年毎ニ退職當時ノ給料日額九日分ヲ乗ジタル金額以内

勤務年數四十年ヲ超ユル者又ハ一年未滿ノ者ニ給スベキ賞與額ハ勤務年數四十年又ハ一年トシテノ額トス

退職又ハ危篤ノ際身分ノ異動アリタル者ノ賞與額ガ異動前ノ身分ニ於テ計算シタル額ヨリ小ナルトキハ其ノ多キ額ヲ給スルコトヲ得

賞與額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第十一條 退職當時ノ俸給、報酬又ハ給料トハ左ニ掲グルモノヲ謂フ

一 軍人及文官同待遇者ノ本俸

二 囑託者ノ報酬(文官ノ本俸ニ相當スルモノ)

三 雇員及傭人ノ給料(文官ノ本俸ニ相當スルモノ)

四 年功ニ因ル加俸(雇員傭人臨時勤続加給支給規則ニ依ル勤続加給ヲ含ム)

五 警察監獄職員ノ精勤加俸及功勞加俸

第十二條 勤務年數ノ計算ハ左ノ各號ニ該當スル日ヲ始期トシ退職ノ日ヲ終期トス但シ就職及退職ノ月ハ各一箇月トシテ計算ス

一 軍人ニ在リテハ任官又ハ候補生若ハ見習尉官任命ノ日但シ二年現役ノ者ニ在リテハ永久服役ニ入リタル日、志願兵トシテ入團(隊)ノ者ニ在リテハ入團(隊)ノ日、徴兵トシテ入團ノ者ニ在リテハ志願兵籍編入ノ日

0652

海軍公報(部内限)第四千四百三十七號 昭和十八年七月十二日 七二七

二 文官同待遇者ニ在リテハ海軍ノ文官又ハ同待遇者トシテ任官又ハ任命ノ日

三 囑託者ニ在リテハ有給囑託ヲ命ゼラレタル日

四 雇員又ハ傭人ニ在リテハ其ノ職ヲ命ゼラレタル日

第十三條 海軍部内ノ文官同待遇者、囑託者、雇員、

又ハ傭人トシテ引續キ勤務シタル者ニ付テハ左ノ各號ニ依リ其ノ勤務期間ヲ通算スルコトヲ得

一 囑託者、雇員又ハ傭人ヨリ文官同待遇者ト爲リタル者ニ在リテハ囑託者及雇員トシテノ勤務期間

ニ付テハ其ノ十分ノ八ニ相當スル年月數、傭人トシテノ勤務期間ニ付テハ其ノ十分ノ六ニ相當スル年月數

二 傭人ヨリ囑託者又ハ雇員ト爲リタル者ニ在リテハ傭人トシテノ勤務期間ノ十分ノ七・五ニ相當スル年月數

兵役ニ服スル爲退職シタル者退營(召集解除、二年現役ノ者ニシテ現役ヲ離レタルモノヲ含ム)ノ日ヨ

リ三月内ニ再ビ海軍部内ノ文官同待遇者、囑託者、雇員又ハ傭人トシテ就職シタルトキハ兵役ニ服スル以前ノ勤務期間ハ之ヲ通算スルコトヲ得

前二項ニ規定スル者身分異動又ハ前退職ノ際退職賞與又ハ之ニ相當スル給與ヲ受ケタルトキハ該勤務期間ハ之ヲ通算スルコトヲ得ズ

第十四條 海軍部内ノ文官ニシテ退職ノ當日又ハ其ノ翌日海軍武官ニ任用セラレ現役ニ服シタルトキハ前後ノ勤務期間ハ之ヲ引續キタルモノト看做ス

元平壤鑛業部ニ於ケル同部移管前ノ勤務ハ之ヲ海軍所管内ノ勤務ト看做ス

第十五條 左ノ期間ハ事項發生ノ月ヨリ終了ノ月迄勤務年ヨリ之ヲ除算ス

一 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ判決確定以前ノ勤務期間(過失犯及海軍刑法又ハ陸軍刑法ニ依リ一年未滿ノ禁錮ノ刑ニ處セラレタルモノヲ除ク)及處刑中ノ期間

二 停職又ハ休職中ノ期間

三 逃亡又ハ所在不明中ノ期間但シ所在不明ノ原因ガ已ムヲ得ザル事情ニ因ルモノト認メラレタル場合ハ此ノ限ニ在ラズ

第十六條 退職賞與ヲ給セラレタル者其ノ受給前ニ於テ死亡シタルトキハ其ノ遺族ニ之ヲ交付ス


前項ノ遺族トハ本人ノ妻、子、夫、父、母、孫、祖

父、祖母、兄弟姉妹ニシテ本人死亡當時之同一戸籍内ニ在リタルモノヲ謂ヒ其ノ順位ハ右ニ掲ゲタル順序ニ依リ同順位内ニ在リテハ家督相續ノ順位ニ依ル

前項ノ規定スル遺族ナキ場合ニ於テハ本人死亡當時實家又ハ本家ニ在ル實父母、家督相續人、本人死歿ノ當時屬シタル家ノ戸主又ハ其ノ家ヲ相續シタル戸主ノ順序ニ依リ賞與ヲ交付スルコトヲ得

第十七條 所屬長官本内規ニ依リ賞與ヲ行ヒタルトキハ其ノ月發令ノモノヲ取纏メ翌月末日迄ニ海軍大臣ニ之ヲ報告スベシ（別紙書式第四）

附則

本内規ハ昭和十八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス  
大正十五年官房機密第三三四號ハ之ヲ廢止ス  
（書式四葉添）  


官房人機密第三三六號

海軍軍政要員ニ對スル退職賞與内規左ノ通定ム

昭和十八年七月十日

海軍大臣

海軍軍政要員ニ對スル退職賞與内規

第一條 海軍軍政要員ニ對シテハ海軍退職賞與内規第八條第三號ノ規定ニ拘ラズ本内規ニ依リ退職賞與ヲ支給ス

第二條 本内規ニ於テ海軍軍政要員トハ左ニ掲グル者ヲ謂フ

一 部外ノ文官同待遇者ニシテ大東亞地域占領地行政ニ從事スル爲海軍ノ文官同待遇者トシテ轉官又ハ轉職シタルモノ

二 部外ノ文官ニシテ明治三十八年勅令第四十三號ニ依リ所屬官廳ノ定員外ト爲リ海軍ニ於テ勤務スルモノ

三 前號ノ外部外官廳ノ文官同待遇者、雇員又ハ傭人ニシテ前號ノ趣旨ニ依リ專ラ海軍ノ勤務ニ服シ

第三條 海軍軍政要員勤務年數一年以上ニシテ退職シタルトキハ左ノ各號ニ依リ退職賞與ヲ給スルコトヲ得

一 文官同待遇ニ付テハ勤務年數滿一年毎ニ退職當時ノ俸給月額ノ十分ノ五ヲ乘ジタル金額以內

二 傭託者及雇員ニ付テハ勤務年數滿一年毎ニ退職當時ノ報酬又ハ給料月額ノ十分ノ四（日給者ニ在

リテハ十二日分)ヲ乗ジタル金額以内

三 備人ニ在リテハ勤務年數滿一年毎ニ退職當時ノ給料日額九日分ヲ乗ジタル金額以内

勤務年數一年未滿ノ者ト雖危篤ニ陥リタルトキハ又ハ公務傷病ノ爲退職シタルトキハ勤務年數一年ノ者ニ給スベキ額ヲ給スルコトヲ得

勤務年數ノ計算ニ付テハ海軍ノ勤務ヲ命ゼラレタル日ヲ始期トシ之ヲ解カレタル日ヲ終期トス

附則

本内規ハ昭和十六年十二月八日以後退職又ハ危篤ニ陥リタル者ニ付之ヲ適用ス

官房人機密第三三七號

大東亞戰爭中戰地ニ於テ危篤ニ陥リタル者ニ對スル海軍退職賞與内規ニ依ル賞與手續特例左ノ通定ム

昭和十七年官房機密第一五一二號ハ之ヲ廢止ス (濟) 昭和十八年七月十日

海軍大臣

一 戰地ニ於テ危篤ニ陥リタル者ノ退職賞與手續ハ特務士官以下ノ軍人ニ付テハ在籍鎮守府司令長官、判任官待遇ノ囑託者、雇員及備人(民政部又ハ民政部

所屬ノ者ヲ除ク)ニ付テハ所管鎮守府司令長官、民

政府又ハ民政部所屬ノ判任官待遇囑託者、雇員及備人ニ付テハ海軍省人事局長ヲシテ之ヲ代行セシム

二 所轄長ハ特務士官、准士官、下士官兵、判任官待遇ノ囑託者、雇員又ハ備人ニシテ戰地ニ於テ危篤ニ陥リタルモノニ對シ賞與至當ト認メタルトキハ左ニ掲グル事項ヲ前號ノ區分ニ依リ鎮守府司令長官又ハ海軍省人事局長ニ速ニ之ヲ申牒スベシ

(イ) 官職階氏名

(ロ) 死亡ノ年月日時刻

(ハ) 死亡ノ場所

(ニ) 死亡ノ事由

(ホ) 履歷 (軍人ヲ除ク)

採用、命課、報酬又ハ給料額、昭和十七年官房第四五八五號ニ依リ有給囑託者、雇員又ハ備人ト爲

リ又ハ無給囑託者ガ有給ト爲リタル事項等海軍部内ニ採用後死亡ニ至ル迄ノ事項詳記ノコト

(ヘ) 退職賞與内規第九條ノ規定ニ依リ減額至當ト認

ムルモノニ付テハ其ノ事由

(ト) 本籍、遺族ノ現住所、本人トノ續柄及名(軍人除ク)

三 前號ノ手續ヲ行フベキ所轄長ノ在ラザル場合ニハ該所轄ノ所屬シタル廳長又ハ艦船部隊職務整理班長所轄長ニ代リ同號ノ手續ヲ行フモノトス

四 鎮守府司令長官又ハ海軍省人事局長ハ第二號ノ申牒ニ基キ賞與ヲ行フモノトス

五 所屬長官艦隊所屬各廳(民政部及民政部ヲ含ム)ニ勤務スル文官同待遇者及委任官待遇以上ノ囑託者ニシテ戰地ニ於テ危篤ニ陥リタルモノニ對シ賞與至當ト認メタルトキハ第二號(文官ニ付テハ同號ノ中(ホヲ除ク)ニ掲グル事項ヲ海軍省人事局長ニ通報スベシ

○通牒

兵備四機密第六二九號

昭和十八年七月十日

海軍省兵備局長

關係廳長殿

臺灣ニ於ケル内地人及臺灣人ノ採用ニ關スル件照會

臺灣ヨリ同地以外ノ内外各地ニ對シ内地人及高砂族ヲ

雇員備人又ハ工傭員等トシテ供出スルコトハ已ニ豫定サレアルモノ、外不可能ニ付了知相成度  
尙從來臺灣以外ノ内外各地ニ供出スル爲臺灣人ヲ雇員備人又ハ工傭員等ニ募集採用スル場合直接臺灣總督府ニ申込ヲナス向有之候處斯テハ勞務ノ重點的配置其ノ他勞務統制上不都合ヲ生ズルニ付自今必ズ當局ニ協議相成度

海人機密第七〇號

昭和十八年七月十日

海軍省人事局長

各廳長殿

海軍退職賞與内規ニ關スル件申進

海軍退職賞與内規第八條第三號中「特ニ定ムルモノ」トアルハ主トシテ海軍軍政要員等ニ對スル退職賞與内規ニ規定スルモノヲ指稱スル次第ニ付了知相成度

教育機密第二〇二號

昭和十八年七月九日

海軍省教育局長

橫須賀鎮守府參謀長  
關係各學校長殿

海軍公報(部内限)第四千四百三十七號

昭和十八年七月十二日

七三一

0656

<p>爆破關係事項教育研究ニ關スル件申進 首題ノ件左記ノ通定メラレ候條然ルベク實施方取計相 成度 記</p>	<p>學 校 名</p>	<p>砲 術 學 校 館 山 海 軍</p>
<p>海軍機雷學校 一 水中障害物ノ爆破 防材ノ破壊 鐵索及鐵釘ノ破壊 暗礁、珊瑚礁ノ破壊 二 (ハ) (ロ) (イ) 其ノ他水中關係ノ爆破</p>	<p>海軍工作學校 工作技術上ノ爆破</p>	<p>一 陸上諸構築物爆破 木材ノ破壊 架空線、地中線ノ破壊 鐵材、鐵路ノ破壊 「コンクリート」類建築物ノ 破壊 (ホ) 橋梁ノ破壊 陸上障害物ノ破壊 突撃路ノ開設 鐵條網、鐵柵ノ破壊 拒馬ノ破壊 地雷ノ破壊 伐根ノ破壊 三 其ノ他陸戰關係ノ爆破</p> <p>教育機雷第二〇三號 昭和十八年七月九日 海軍省教育局長 各鎮守府 參謀長殿 各警備府 水測術特技兵臨時講習教程標準ノ件通牒 昭和十四年官房機雷第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙 ノ通 (別紙添)</p> <p>教育機雷第二〇四號 昭和十八年七月九日 海軍省教育局長</p>

0657



各鎮守府  
各警備府 參謀長殿

水雷術特技兵臨時講習教程標準ノ件通牒

昭和十四年官房機密第六五八九號ニ依ル首題ノ件別紙ノ通

(別紙第一、第二添)

○ 辭 令

聯合艦隊齒科治療業務囑託

三ツ本彌三郎

海軍兵學校齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

第四艦隊齒科治療業務囑託

林 廣一

別府海軍病院齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千百拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

第二艦隊齒科治療業務囑託

長島 弘雄

大湊海軍病院齒科治療業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千貳百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上各鎮守府海軍省)

海軍大佐 松村 積徳

海軍軍醫少佐 熊谷 三郎

同 河野 左雷

海軍軍醫大尉 羽田 春兎

同 吉川 祐爾

同 藤原 元典

海軍技術中佐 安並 三男

海軍技術少佐 高橋 修一

昭和十八年度海軍武官任用臨時委員ヲ免ス

海軍大佐 和泉 馨

同 中野 實

海軍軍醫中佐 佐伯 尚

同 宇佐美 正夫

同 原田 昌雄

海軍軍醫少佐 阿部 雅之介

同 土性 壽

同 波多野 克己

同 濱崎 靜雄

海軍軍醫大尉 長橋 一雄

(各通)

(各通)

海軍公報(部内限) 第四千四百三十七號 昭和十八年七月十二日

七三三

0658

○ 雜 款

○ 試驗問題發送

第七十五期高等科水雷術練習生採用試驗問題  
右七月一日左記ノ通發送濟未着ノ向及別ニ必要ノ向ハ  
本校へ至急通知相成度

記

一 單獨試驗施行豫定ノ各部ニハ直接、聯合試驗用ハ  
各海軍人事部及各警備府宛送付セリ

二 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更等ノ  
爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單  
獨試驗用問題若干部送付シテアリ

(海軍水雷學校)

○ 學生入校期

昭和十七年官房機密第一一二七五號ニ依ル本校第十一  
期特修科學生ハ八月四日始業式ニ付其ノ前日迄着校セ  
シメラレ度

(海軍機雷學校)

○ 事務開始

對馬艦裝員事務所ハ六月十九日鶴見造船所内ニ於テ事  
務ヲ開始セリ

海軍軍醫大尉 藤田 米次

同 横 堀 榮

同 新藤 英夫

同 加々美 勝彦

同 土井 源治郎

同 宇田 儉一

同 伊藤 迪康

同 海軍技術大佐 森川 信雄

同 海軍技術少佐 能勢 義雄

昭和十八年度海軍武官任用臨時委員ヲ命ス(以上簡  
同)

海軍軍醫學校齒科治療業務兼齒科學  
教授囑託  
藤原 隆藏

第三 南遣艦隊齒科治療業務ヲ囑託ス  
但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待  
遇トス(註同)

第二 部勤務ヲ命ス(註同) 軍令部出仕海軍大佐 黒島 龜人

第一 課勤務ヲ命ス(註同) 海軍主計中尉 佐々木 浩

書式第一

第 號

年 月 日

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

海軍大臣殿

退職賞與ノ件具申

左記ノ者今般退職致(危篤ニ陥リ)候處在職中勤務ニ精勵シ其ノ成績顯著ニ付頭書ノ通賞與致度候條認許相成度

記

退職 (危篤)	年月日	勤務年數	俸給月額	賞與金額	官	級俸	氏	名	電報符

(備考) 第九條ノ規定ニ依リ減額ノモノニ付テハ其ノ事由及減額率ヲ附記スルコト

0660

書式第二  
第 號

年 月 日

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

海軍大臣殿

所 屬 長 官

退職賞與ノ件具申

左記ノ者今般退職致(危篤ニ陥リ)候處在職中勤務ニ精勵シ其ノ成績顯著ノ者ニ有之候  
條頭書ノ通賞與相成度

記

就職年月日	退職(危篤)年月日	勤務年數	報酬年(月)額	賞與金額	及 俤 託 遇 名	氏 名

(備考)

- 一 第九條ノ規定ニ依リ減額ノ場合ニハ其ノ事由及減額率ヲ附記スルコト
- 二 退職當時ノ勤務廳、囑託名若ハ待遇ガ就職當時ノ其レト異ル者又ハ雇員、傭人等ノ勤務期間ヲ通算スル者ニ付テハ履歷書ヲ添附スルコト

0661

書式第三

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

退職當時ノ官(職) 氏

名

職務勉勵ニ付特ニ金

圓ヲ賞與ス

年 月 日

〔海 軍 省〕

〔横 須 賀 鎮 守 府〕

等

(備考) 日附ハ退職又ハ他篤ノ日トス

0662

書式第四  
第 號

年 月 日

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

海軍大臣殿

退職賞與ノ件報告

所 屬 長 官

退職 賞與 ノ 別	同 上 年 月 日	勤 務 年 數	支 出 科 目	俸 給 月 額	賞 與 金 額	官 職 名	級 俸	氏 名

(備考)

- 一 特務士官、准士官、下士官、兵、文官同待遇者、嘱託者、雇員傭人ノ區分ニ依リ各別紙トス
- 二 徴用員ニ付テハ官職名ノ欄ニ「判待嘱託(徴)」ノ如ク記載スルコト

0663

(別紙)

一 艦艇班

水測術特技兵臨時講習教程標準

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

0664

科補	科										科				
	他ノ共		音	電	磁	九	中	水	儀信探						
陸戰、潜水艦ノ大要、航空機ノ大要、運用術ノ大要、信號術ノ大要 武技、體操、體技、救急法、普通學	防備兵器	射	電氣兵器	電氣磁氣	水中測的法	水中聽音機取扱法	水中聽音機	水中測的法	水中聽音機取扱法	水中聽音機	探信儀	探信儀取扱法	兵器學	探信儀(九三式、輕便)	教授回数(半日7回トス) 四ヶ月教程
	防備兵器	爆雷、投射裝置ノ大要、投射操法大要	水測關係電氣兵器大要	電氣磁氣、電機ノ各大要	二式磁氣探知器取扱法	九二式機雷取扱法	水中聽音機(九七式、一式)	水中聽音機取扱法(九三式、零式、吊下式)	水中聽音機取扱法(九三式、零式、吊下式)	水中聽音機取扱法(九三式、零式、吊下式)	水中聽音機(九三式、零式、吊下式)	探信儀取扱法(九三式、輕便)	探信儀取扱法(九三式、輕便)	兵器學	
	二	三	二	四	二〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	七〇	七〇	七〇	七〇	

二 衛所班

科補	科										科				
	他ノ共		音	電	磁	九	中	水	儀信探						
艦艇班ニ同シ	防備兵器	射	電氣兵器	電氣磁氣	水中測的法	水中聽音機取扱法	水中聽音機	水中測的法	水中聽音機取扱法	水中聽音機	探信儀	探信儀取扱法	兵器學	探信儀(九三式、輕便)	教授回数(半日7回トス) 四ヶ月教程
	防備兵器	爆雷、投射裝置ノ各大要、投射操法大要	水測關係電氣兵器大要	電氣磁氣、電機ノ各大要	二式磁氣探知器取扱法	九二式機雷取扱法	水中聽音機(九七式、一式)	水中聽音機取扱法(九三式、零式、吊下式)	水中聽音機取扱法(九三式、零式、吊下式)	水中聽音機取扱法(九三式、零式、吊下式)	水中聽音機(九三式、零式、吊下式)	探信儀取扱法(九三式、輕便)	探信儀取扱法(九三式、輕便)	兵器學	
	二	三	二	四	二〇	五〇	五〇	五〇	五〇	五〇	七〇	七〇	七〇	七〇	

(別紙第一)

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

水雷術特技兵(一般艦艇班)臨時講習教程標準

科目	科 本											科 目	項 目			
	電				雷 機 魚											
	雷		機		雷		機 魚									
	操	學	器	兵	操	發	學	器	兵	機	魚					
普通科水雷術練習生ニ準ズ	電	氣	術	操	雷	機	操	發	指	魚	發	縱	工	火	爆	魚
					法	海		雷								
						機										

**取扱法ノ大要**

- 電氣及磁氣ノ大要
- 發射電路、發射關係電氣通信器及電氣器具ノ構造、機能、取扱法ノ大要
- 掃海具操法、發射操法
- 爆雷及發射裝置ノ構造、機能、取扱法ノ大要
- 掃海具、防雷具ノ構造、機能、取扱法ノ大要
- 機雷ノ構造、機能ノ大要
- 水上發射機操法、魚雷戰指揮裝置操法
- 發射法ノ大要、發射準備調整取扱法、發射實習
- 水上艦艇用魚雷戰指揮裝置取扱法ノ大要
- 水上艦艇用發射機同附屬具ノ構造、機能、取扱法ノ大要
- 縱舵機ノ構造、機能、取扱法ノ大要
- 火藥火工兵器取扱法
- 爆發尖ノ構造、機能、取扱法ノ大要
- 水上艦艇用魚雷同附屬具ノ構造、機能、取扱法、分解組立

教授回数(半日シ一)  
同トス  
三箇月教程

六  
一  
二  
三  
五  
二  
二  
三

0665



(別紙第二)

(昭和十八年七月十二日海軍公報(部内限))

水雷術特技兵(魚雷艇班)臨時講習教程標準

科 補	科 本										科 目	項 目	教授回数 (平日ラ一 回トス)	二箇月教程
	雷 爆			雷 魚										
	投 射 法	操 法	兵 器 學	操 法	發 射 法	學 器 兵			魚 雷					
						發 射 機	縱 舵 機	工 火 兵 器		爆 發 尖				
左ノ外普通科水雷術練習生ニ準ズ 見張、旗旒、發光信號	投射法ノ大要	投射操法	爆雷及投射裝置ノ構造、機能、取扱法ノ大要	落射機操法	發射法ノ大要、發射準備調整取扱法、發射實習	魚雷艇用落射機同附屬具ノ構造、機能、取扱法ノ大要	縱舵機ノ構造、機能、取扱法ノ大要	火藥火工兵器取扱法	爆發尖ノ構造、機能、取扱法ノ大要	魚雷艇用魚雷同附屬具ノ構造、機能、取扱法、分解組立				
	八			四〇	四	二		三〇						

0666

(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千四百三十八號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十三日(火)

## ○ 令 達

官房經第七七三號

一般會計歲入臨時部官有物拂下代(款)、物品拂下代(項、目)ノ解疏ヲ左ノ通改正ス

昭和十八年七月十二日

海軍大臣

作業會計法第五條ニ依ル固定資本ニ屬スル物件ノ賣拂代及前年度ヨリ繰越タル歳入金

## ○ 通 牒

海人第一五三號

昭和十八年七月十二日

海軍省人事局長

各廳長 殿

戦死者等ノ戶籍手續ニ關スル件通牒

海軍軍人軍屬ノ戦死者等ニ關シ戶籍法第百十九條ノ規

定ニ依リ又ハ同條ノ規定ニ準ジ死亡報告ヲ爲ス場合ノ手續ハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 昭和十二年官房第五二二〇號ニ依リ戦死者、戦死確認ノ者及戦地又ハ事變ノ生ジタル地ニ於テ水難、火災等ノ事故ニ因リ死亡シタル者ニ付海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ヨリ發スベキ市(區)町村長宛死亡報告ハ別紙書式第一ニ依ルコト

二 前號ニ該當スルモノノ外艦船又ハ航空機乗員行方不明ト爲リ死体ヲ收容スルコト能ハザルモ四圍ノ狀況ニ依リ死亡ヲ確認シタル場合所轄長ヨリ發スベキ市(區)町村長宛死亡報告ハ別紙書式第二ニ依ルコト

右報告書ハ士官、豫備士官、高等文官及奏任官待遇以上ノ職記者ニ付テハ海軍省人事局長、特務士官、准士官以下ノ軍人ニ付テハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長、判任文官同待遇者ニ付テハ履歷書ノ正本ヲ保管スル廳ノ廳長(海軍省人事局長又ハ海軍人事部長)、

海軍公報(部内限) 第四千四百三十八號

昭和十八年七月十三日

七三五

0667

其ノ他ニ付テハ所管鎮守府ノ海軍人事部長(民政府又ハ民政部所屬ノ者ニ付テハ海軍省人事局長)ヲ經由スルモノトス

(備考) 昭和十二年十月十四日海人第一號ノ一二二

及同十六年七月十九日海人第一號ノ一〇七

ハ廢止ス

(別紙ニ葉添)

海人第一五四號

昭和十八年七月十二日

海軍省人事局長

各廳長殿

戰地死亡者ノ戶籍手續ニ關スル件通牒

海軍軍人軍屬戰死シ若ハ戰死ト確認セラレ又ハ戰地若ハ事變ノ生ジタル地ニ於テ水難、火災等ノ事故ニ依リ死亡シタル場合ニ付テハ海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ニ於テ戶籍法第百十九條ニ準ジ死亡報告ヲ爲スコトニ處理シアル處(昭和十二年官房第五二二〇號)戰地ニ於テ右以外ノ事由ニ依リ死亡ノトキ死亡診斷書又ハ死体檢案書ヲ作成スベキ軍醫科士官等ノ在ラザル場合ノ戶籍手續ハ左記ニ依リ處理相成度

記

一 所轄長ハ士官、豫備士官、高等文官及奏任官待遇以上ノ囑託者ニ付テハ海軍省人事局長ニ、特務士官、准士官以下ノ軍人ニ付テハ在籍鎮守府ノ海軍人事部長ニ、判任文官同待遇者ニ付テハ履歷書ノ正本ヲ保官スル廳ノ廳長(海軍省人事局長又ハ海軍人事部長)ニ、其ノ他ニ付テハ所管鎮守府ノ海軍人事部長(民政府又ハ民政部所屬ノ者ニ付テハ海軍省人事局長)ニ左ノ事項ヲ通報スルモノトス

- 一 本 籍
- 二 氏 名
- 三 出生年月日
- 四 戶主ノ氏名及戶主トノ續柄
- 五 官 職
- 六 死亡年月日時刻
- 七 死亡ノ場所
- 八 死亡ノ事由 (傷病名)
- 九 遺族ノ現住所氏名 (軍人ヲ除ク)
- 二 海軍省人事局長又ハ海軍人事部長ハ前號ノ通報ニ基キ別紙書式ノ死亡證明書(三通)ヲ遺族ニ交付シ

0668

戶籍法第十六條ニ依ル死亡届出ヲ爲サシム

(別紙添)

○ 辭 令

參千四百九拾貳圓

貳千四百四拾八圓

貳千貳百六拾八圓

貳千貳百四拾四圓

千百六拾四圓

(各通)

參千參百圓

千八百六拾圓

貳千四百六拾圓

千七百七拾六圓

千九百貳拾圓

貳千參百四拾圓

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(三三〇同)

參千貳百五拾貳圓

(各通)

貳千百圓

徵用中自今年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官

藤田 敬三

和田 勇雄

中島 光吉

吉田 作郎

森田 勝喜

井垣 榮一

天野 勝郎

古賀 滿男

松元 靜雄

永嶺 忠一

片野 喜一

寺内 由男

堀富 重行

横尾 義幹

待遇トス(三三〇同)

堀井 豐松

徵用中自今年額參千八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(三三〇同)

山下 井

徵用中自今年額參千貳百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官

待遇トス(三三〇同)

藤 堂 稔

徵用中自今年額千六百八拾圓ヲ給シ部内限奏任官待

遇トス(三三〇同)

氣象技師 淵 本 一

(各通)

同 門 脇 四郎

第三氣象隊附ヲ命ス(三三〇同)

臺灣總督府屬 永田 清實

海南警備府附ヲ免ス(三三〇同)

海軍主計大佐 松ノ谷武三郎

能率増進對策調査委員會委員ヲ命ス(三三〇同)

遞信局書記 伊藤 幸次郎

第二十三海軍軍用郵便所員ヲ命ス

(各通)

遞信書記 飯 野 了

遞信局書記補 花形 三郎

海軍公報(部内限) 第四千四百三十八號 昭和十八年七月十三日

七三七

0669

(各通)

事務員 白石 俊信  
同 小川 精一  
同 野村 猪之吉  
集配員 増淵 清次  
同 海老根 武

第十海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上同)

軍令部出仕海軍中佐 入江 籌直  
第三部第八課勤務ヲ命ス(軍令部)

軍令部出仕海軍中佐 大井 篤  
第一部勤務ヲ命ス(同)

海軍主計中尉 大竹 淑郎  
第一課勤務ヲ命ス(海軍省人事局)

海軍主計中佐 岡本 登良夫  
ボルネオ島バンジエルマシン方面ニ於ケル準備購入  
材料物品費支拂ノ爲臨時資金前渡官吏ヲ命ス

同 井上 鐵也  
臨時資金前渡官吏ヲ免ス(以上支出官海軍省經理局長)

○ 雜 款

○司令掃海艇復歸  
第五十二掃海隊司令ハ七月三日司令掃海艇ヲ第二十四  
號掃海艇ニ復歸セリ

○事務引繼  
在ボルネオ島バンジエルマシン臨時資金前渡官吏七月  
三日事務引繼ヲ了ス  
前任 海軍主計中佐 井上 鐵也  
後任 同 岡本 登良夫

○事務開始  
伊號第四一潜水艦艦裝具事務所ハ七月一日吳海軍工廠  
内ニ於テ事務ヲ開始セリ  
電話番號 准士官以上事務室 吳工廠 三〇〇八番  
庶務 同 三七五九番

○事務所移轉  
大阪地方海軍人事部假事務所ハ七月八日大阪市北區玉  
江町一丁目四番地(大阪水交社隣接地)ニ移轉セリ

○取消  
七月七日附公報(本報附限)號外辭令欄一頁下段七行目  
長島弘雄ノ辭令ヲ取消

書式第一  
第 號  
年 月 日  
(昭和十八年七月十三日海軍公報(部内限))

市(區)町村長宛

海軍人事部長 氏

名 職印

海軍軍人戦死ノ件報告

海軍軍人左記ノ通戦死ニ付戸籍法第百十九條ノ規定ニ準ジ及報告候

- 一 本 籍
- 二 氏 名
- 三 出生年月日
- 四 戸主ノ氏名及  
続柄
- 五 官 職
- 六 死亡ノ年月日時
- 七 死亡ノ場所
- 八 死亡ノ事由

(備考)

- 一 戦地ニ於テ水難、火災等ノ事故ニ依リ死亡シタル者ニ付テハ死亡ノ事由欄ニ「水死」、「焼死」  
等ノ如ク記載シ尙次ノ通附箋ヲ爲スニト
- (附箋) 本件ハ昭和十二年民事甲第一三九九號司法省民事局長通牒第三號該管ノ者ニ有之候
- 二 戦死以外ノモノニ付テハ表題及本文中「戦死」ヲ「死亡」トシ、軍屬ニ付テハ表題及本文中「軍  
人」ヲ「軍屬」トス

0671

書式第二

第 號

年 月 日

(昭和十八年七月十三日海軍公報(部内限))

市(區)町村長宛

所轄長 氏

名

職印

0672

海軍(軍)軍人死亡ノ件報告

海軍軍人左記ノ通死亡ニ付戸籍法第百十九條ノ規定ニ依リ及報告候

記

- 一本 籍 何府何郡何町大字何番地
- 二氏 名 何 某
- 三出生年月日 何年何月何日
- 四戸主ノ氏名及戸主 何某何男
- 五所 轄、官(職) 軍艦何 海軍一等兵曹
- 六死亡ノ年月日時 何年何月何日午前何時何分(又ハ時刻不詳)
- 七死亡ノ場所 何港外南方何渾沖又ハ何島ノ東方北緯何度何分東經何度何分ノ海上
- 八死亡ノ理由 軍艦何乗組トシテ何年何月何日午前何時何分何港外南方何渾沖ニ於テ公務ニ從事中海中ニ墜落行方不明ト爲リタルニ依リ爾後極力搜索ヲ遂グタルモ遂ニ發見スルニ至ラズ四圍ノ情況ニ照シ生存ノ見込ナキモノト認め死亡セシモノト認定ス

(備考)

- 一 軍屬ニ付テハ表題及本文中「軍人」ヲ「軍屬」トス
- 二 下欄ハ記載例トス、第四號ハ死亡者ガ家族ナル場合ノ例ニシテ死亡者ガ戸主ナルトキハ「戸主」トス
- 三 戦地又ハ特設部隊(戦地ニ在ル特設各廳ヲ含ム)ノ死亡者ニ付テハ「所轄長氏名」ハ「海軍某部隊長」トス但シ職印ヲ用フルコト
- 四 恩給取扱手續第五條第一項第三號ノ規定ニ依リ進達スル謄本ニハ所轄長氏名ノ下ニ捺印(職印)シ欄外上部ニ「謄本ノ朱書表示ヲ爲スコト

(別紙)

死亡證明書

(昭和十八年七月十三日海軍公報(部内限))

一本

二氏

三出生年月日

四戸主ノ氏名及  
トノノ続柄

五官職

六死亡ノ年月日時

七死亡ノ場所

八死亡ノ事由

右證明ス

年 月 日

海軍人事部長 氏

名

職印

(備考) 死亡ノ事由ハ「戦病死」トス

0673



(限 内 部)

# 海軍公報

(部内限) 第四千四百三十九號

昭和十八年七月十四日(水)

## 海軍大臣官房

### ○令 達

官房艦第三四六號

當分ノ間海軍共濟組合會計規程第六條ノ規定ニ拘ハラズ左記ニ依リ海軍艦政本部長ノ指定スル總務部第四課主計科佐尉官ヲシテ官房艦機密第三三五五號ニ依ル特設廳所屬ノ一部組合員ニ對スル出納事務ヲ掌ラシム

昭和十八年七月十二日

海 軍 大 臣

記

應 名	出 納 主 任	備 考
海軍艦政本部	艦政本部長ノ指定スル總務部第四課主計科佐尉官	特設廳部出納主任ト稱ス

官房人機密第三四一號

左表ニ依リ海軍練習航空隊特修科學生ヲ採用ス

昭和十八年七月十三日

特修科目	射爆兵器整備術
採用資格	掌砲兵又ハ掌測的兵出身者タル少尉(水)又ハ兵曹長ニシテ射爆兵器整備術ヲ修習セシムルニ適スル者
入隊期日	昭和十八年八月十五日
入隊セシムベキ航空隊	洲崎海軍航空隊
採用員數	横須賀 鎮守府 一 吳 鎮守府 一 佐世保 鎮守府 一 舞鶴 鎮守府 一 計 四
修業期間	約二月半
備 考	本學生教程ヲ修了シタル者ハ高等科射爆兵器整備術専修者ト看做ス但シ兵曹長ハ海軍武官任用令第二十九條第一項ノ規定ニ依リ海軍整備兵曹長ニ之ヲ任用スルモノトス

海軍公報(部内限) 第四千四百三十九號

昭和十八年七月十四日

七三九

0674

○通牒

官房備第一八七號

昭和十八年七月十三日

海軍省 副官

關係各廳長殿

福岡航空無線標識業務開始ニ關スル件通牒

首題ノ件左記要領ニ依リ七月一日ヨリ業務開始ノ旨通知有之候條了知相成度  
追テ右ハ時局柄ニ般ニハ公表セザル趣ニ有之候

記

福岡無線標識施設概要

- 一 名稱 福岡無線標識所
- 二 位置 福岡縣糟屋郡新宮村字新宮
- 三 發射空中線 東經 一三〇度二六分五二秒  
地理的位置 北緯 三三度四〇分一七秒
- 四 空中線電力 一「キロワット」以下
- 五 標識電波ノ型式及周波數 A<sub>2</sub> 三二八「キロサイクル」
- 六 標識ノ型式 無指向式
- 七 標識符號 X F

- 八 通達距離 五〇〇「キロメートル」
- 九 發射方法 (イ) 航空機ノ要求ニ依リ發射スル  
モノトス  
(ロ) 電波發射ヲ依頼スル場合ハ福岡通信所へ申出ヅルコト

海運機密第六一六號

昭和十八年六月二十五日

海軍運輸本部長

關係各廳長殿

海軍人員鐵道輸送豫定通報ニ關スル件通牒

戰時陸運非常體制實施以來重點物資輸送確保ノ爲鐵道ノ旅客輸送力ハ漸次壓縮ヲ受クルニ至リ之ニ伴ヒ旅客ノ輸送統制ハ今後益々強化制約ヲ免カレザルノ狀勢ニ鑑ミ此ノ際輸送確保ノ要アリト認ムル軍事並ニ之ニ準ズベキ國策的集團ニ對シテハ豫メ事前ニ計畫ヲ樹テ優先的ニ輸送手配ヲ講ジタキ旨鐵道省ヨリ協議有之候ニ就テハ來ル八月一日ヨリ輸送計畫ニ關スル必要事項ヲ左記ニ依リ通報方取計ヲ得度

記

一 計畫範圍

0675

新兵及召集兵ノ入團、演習、兵員ノ休暇、軍屬(含工員)ノ派遣及歸還、患者、英靈(含遺族)、學生練習生等ノ入校並ニ卒業後ノ復歸、學生生徒及工員ノ休暇歸郷等ノ爲鐵道輸送ヲ要スルモノ並ニ前記以外ニシテ事前ニ動員計畫ガ策定サレ機密保持上豫告差

支ナキモノ全部  
 二、計畫ノ種別  
 (イ) 期別計畫(準備計畫)  
 一年ヲ左ノ四期ニ分チ豫測シ得ル概要ヲ様式第一ニ依リ指定期日迄ニ指定箇所ニ送達スルコト

期別	期	間	送達期日	送付先
第一期	自三月	至五月	一月二十日迄	本省内各廳ハ—— 海軍運輸本部ニ
第二期	自六月	至八月	四月二十日迄	鎮守府又ハ警備府隸下各廳ハ——
第三期	自九月	至十一月	七月二十日迄	鎮守府又ハ警備府所在地海軍運輸部經由
第四期	自十二月	至翌年二月	十月二十日迄	海軍運輸本部ニ

(ロ) 月間計畫(實施計畫)

計上スベキ計畫要領	送達期日	送付先	處	方
月間ニ於ケル輸送實施計畫要領ヲ様式第一	前月五日迄	本省内各廳ハ—— 海軍運輸本部ニ 鎮守府又ハ警備府隸下各	海軍運輸部	海軍運輸本部
			輸送區間ガ鎮守府又ハ警備府所在地ノ鐵道局管内ヲ發著驛トスル臨時列車又ハ隣接鐵道局ニ亘ル増結	以上各廳ヨリ送付ヲ受ケタル輸送計畫ヲ一括取纏メノ

海軍公報(部内限) 第四千四百三十九號 昭和十八年七月十四日

七四二

0676

二ニ依リ計上スルコト

應ハ

鎮守府又ハ警備府所在地海軍運輸部ニ

輸送ノモノハ十日迄ニ當該鐵道局ニ其ノ他ノモノハ之ヲ一括シテ毎月十日迄ニ海軍運輸本部ニ

上毎月十五日迄ニ鐵道省ニ

本計畫送付ノモノニシテ其ノ内容ニ變更ナキモノニ限リ昭和十七年一月十四日海運機密第十一號海軍人員及軍用貨物鐵道輸送手續所定ノ海軍人員鐵道輸送申込書ニ依ル輸送申込ヲ爲スニ及バズ

但シ變更ヲ要スル場合ハ様式第三ニ依リ速ニ變更方ノ手續ヲ爲スモノトス

三 輸送計畫ノ樹立並通報

海軍運輸本部ノ處理ニ屬スルモノハ鐵道ト輸送實施方協議ノ上海軍鐵道輸送計畫表ヲ作成シ關係應ニ送付ス

海軍運輸部ノ處理ニ屬スルモノハ當該鐵道局ト輸送實施方ヲ協議ノ上計畫要領ヲ申出應及關係應ニ通報ス

（様式一葉添）

○ 辭令

遞信局事務官 村松 潤藏

通信書記 瀧間 義雄

同 湯澤 常紀

同 井手 純一

同 皆吉 豐吉

遞信局技手 小野 有二

同 小山 稔

通信書記補 中間 藏吉

機械工具 飛田 英雄

同 屋良 朝孝

第五通信隊附ヲ免シ第五特別根據地隊附ヲ命ス（六日）

海軍省

通信書記 隈本 市松

0677

(各通) 同 前田 淺吉  
通信書記補 久原 兼治  
遞信技手 佐々木 房吉  
機械工員 田中 彌

東京海軍通信隊附ヲ免シ第五特別根據地隊附ヲ命ス  
同 海老原 梅吉

通信書記 湯澤 常紀

同 井手 純一

同 皆吉 豊吉

(各通) 遞信局技手 小野 有二  
同 小山 稔

機械工員 飛田 英雄

同 屋良 朝孝

第五特別根據地隊附ヲ免シ東京海軍通信隊附ヲ命ス  
(以上ニ同)

事務員 尾上 春夫

(各通) 同 増川 謹治

集配員 藤原 郁郎

第八海軍軍用郵便所員ヲ命ス  
但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(ニ同)

海軍少佐 横山 信義  
防備關係調査研究委員會第三分科會委員ヲ命ス(ニ同)

海軍主計中佐 岡本 登良夫  
ボルネオ海軍民政部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲繼隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 井上 鐵也  
右同分任出納官吏ヲ免ス(以上ニ同)支出官 海軍省經理局長)

○ 雜款

○事務開始  
在滿洲國海軍航空本部造兵監督官事務所ハ七月一日在本溪湖日本海軍監督官事務所ニ於テ監督事務ヲ開始セリ  
呂號第四十二潜水艦艇裝具事務所ハ七月五日佐世保海軍工廠内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○廳舎移轉  
横須賀海軍運輸部ハ七月五日横須賀鎮守府廳舎裏建築物(横須賀鎮守府別館)ニ移轉セリ  
海軍電話 從來通

海軍公報(部内限) 第四千四百三十九號 昭和十八年七月十四日 七四三

0678

市内電話 横須賀 二三三〇番

○電話開通

追濱海軍航空隊知多分遣隊電話ハ六月二十二日開通セ

電話河和 六二番

○削除

六月二十三日附公報(部内限)六四二頁上段一行目「海軍軍醫中佐北村末藏」及七月九日附公報(部内限)七一六頁一行目「海軍軍醫少佐内山彦九郎」同四行目「海軍軍醫大尉皆川邦彦」同十四行目「海軍軍醫大尉中村義一」ノ辭令ハ孰モ削除ス

○正誤

七月七日附公報(部内限)通牒欄經給第二號ノ一一中「被徵用員」ハ「被徵用者」、「再徵用員旅客運賃割引證」ハ「再徵用者旅客運賃割引證」、「傭員」ハ「傭人」、「再徵用員旅行證明書」ハ「被徵用者旅行證明書」ノ孰モ誤

0679

様式第一

昭和 年 第 期人員鐵道輸送概要 廳 名

輸送要求廳	員 數	區 間		期 間		希望並參考事項
		發 驛	著 驛	自	至	

0890

様式第二

昭和 年 月分 月間人員鐵道輸送實施希望計畫 廳 名

輸送要求廳	申込番號	種 別	人 員				荷 物			區 間		期 間				希望列車	運賃支拂		記 事
			准士官以上	下士官	工員	其ノ他	種類	箇數	底數	發 驛	著 驛	日 時	日 時	日 時	日 時		應	種別	

- 備考 1. 申込番號ハ番號ノ外申込廳ノ略稱ヲ附記スルコト  
 2. 種別ハ兵員、軍屬(含工員)、患者、英靈及遺族等ノ別ヲ記入スルコト  
 3. 軍屬ノ人員欄記入方ハ身分ニ依リ區分シ准士官以上、下士官兵欄ニ便宜記入スルコト  
 4. 運賃支拂種別欄ニハ供用令、下士官兵割引證、現拂普通、後拂普通等ノ別ヲ記入スルコト  
 5. 荷物ノ種類ハ衣囊、釣床、其ノ他ノ別ヲ記入シ、底數不明ノ場合ハ箇數ニ平均底數ヲ乗ジタルモノヲ計上スルモノトス  
 6. 期間及希望列車ハ概要ヲ記入スルモノトス  
 7. 記事欄ニハ輸送上ノ希望並參考事項ヲ記入スルコト

様式第三

昭和 年 月 日提出 月分人員鐵道輸送計畫中更改要望 廳 名

輸送要求廳	申込番號	變 更 事 項	理 由

- 備考 1. 申込番號ハ番號ノ外申込廳ノ略稱ヲ附記スルコト  
 2. 變更及取消ノ場合共報告スルコト  
 3. 理由ハ簡明ニ記入スルコト

(昭和十八年七月十四日海軍公報(部内限))

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十號

昭和十八年七月十五日(木)  
海軍大臣官房

○令 達

官房備第一四四號ノ四  
昭和十二年官房第四四九六號中左ノ通改正ス

新設海軍軍用郵便所ノ事務開始ハ追テ之ヲ定ム  
昭和十八年七月十日  
海軍大臣  
表中第十五海軍軍用郵便所ノ項ノ次ニ

第二十一海軍  
軍用郵便所

第十二航空艦隊  
横須賀鎮守府

第十二航空艦隊

所	監督官	兼務	一人
所	長	專任	一人
員	專任	一人	判任
員	專務	一人	判任
員	專務	一人	判任

ヲ加ヘ第三十二海軍軍用郵便所ノ項職員ノ欄所員「專任六人判任三人」ヲ「專任三人判任三人」ニ改ム  
務三人判任三人」ヲ「專任三人判任三人」ニ改ム

(参照) 昭和十二年官房第四四九六號ハ海軍軍用郵便所設置ノ件ナリ(昭和十七年六月六日本欄)

官房備第一八八號  
ラバウル海軍運輸部、ニューギニア民政府及第八海軍建設部ニ於ケル現場作業従事者ハ之ヲ工具ト爲スコト

ヲ得  
前項ノ規定ニ關シラバウル海軍運輸部、ニューギニア民政府及第八海軍建設部ハ之ヲ昭和十七年官房第一七一六號ニ於ケル特設廳ト看做ス  
昭和十八年七月十三日  
海軍大臣  
官房第七九二號  
第一號魚雷艇ヲ雜役船ニ編入シ其ノ船種、船名、所屬

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十號 昭和十八年七月十五日

七四五

0681



等ヲ左ノ通定ム

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

船種	船名	所屬	別定數	記事
練習艇	第一號魚雷艇	海軍水雷學校	臨時附屬	

○通牒

經給機密第一四四號

昭和十八年七月十三日

海軍省經理局長

關係各廳長殿

獎勵加給平均率ニ關スル件通牒

當分ノ間得撫島以北ノ千島諸島ニ在ル海軍ノ各部ニ勤務(派遣ヲ含ム)ノ工員ニ對スル獎勵加給ハ昭和十二年六月四日艦本機密第八四二一號及同年八月二十一日艦本機密第一三九七七號ノ規定ニ拘ラズ平均五割迄支給スルコトヲ得

○辭令

(各通)

海南警備府附ヲ命ス

南西方面艦隊民政部附ヲ命ス

(各通)

第二南遣艦隊司令部附ヲ命ス(海軍省)

第十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

第十一海軍軍用郵便所員ヲ命ス

東京海軍通信隊附ヲ免シ第十通信隊附ヲ命ス(以上各通)  
東京海軍通信隊附ヲ免シ第十通信隊附ヲ命ス(以上各通)

(各通)

水路部附兼海軍氣象部ヲ免ス(各通)

大東亞技師 正本 茂男

大東亞理事官 加藤 義明

大東亞技師 島澤 正德

大東亞屬 土川 福雄

同 小坂 寬見

大東亞技師 野呂 一正

通信書記補 井上 直一

事務員 太田 清司

但シ身分ノ取扱ハ雇員トス(以上各通)

通信書記補 濱田 民登

氣象技師 草野 和夫

同 伊東 玄二郎

北村 寬一

0682

<p>第六海軍軍用郵便所員ヲ免ス(特命同)</p> <p>電波物理研究所研究官補 小島 莊</p> <p>幌筵通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p>電波物理研究所履 愛智 康夫</p> <p>(各通) 同 北山 惣三郎</p> <p>幌筵通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p>同 後藤 功</p> <p>第二十三特別根據地隊附兼海軍技術研究所附ヲ免シ</p> <p>幌筵通信隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p>(各通) 同 池田 正男</p> <p>同 笠井 勝</p> <p>第二十三特別根據地隊附兼海軍技術研究所附ヲ命ス</p> <p>(以上特命同)</p> <p>(各通)</p> <p>海軍大佐 北川 金光</p> <p>海軍技術中佐 大平 一郎</p> <p>海軍技術少佐 中村 通夫</p> <p>陸海軍(除航空) 技術委員會委員ヲ命ス</p> <p>海軍技術師 溝部 浩</p> <p>陸海軍(除航空) 技術委員會委員ヲ免ス</p>	<p>遞信屬 市川 涉</p> <p>第二南遣艦隊司令部附ヲ免ス(特命同)</p> <p>軍令部課長海軍大佐 杉浦 矩郎</p> <p>兼第二部第四課長ヲ命ス</p> <p>軍令部部員海軍中佐 入江 籌直</p> <p>第三部第八課勤務ヲ命ス(以上特命軍令部)</p> <p>海軍大佐 杉浦 矩郎</p> <p>兼參謀部第二部第四課長ヲ命ス</p> <p>海軍中佐 入江 籌直</p> <p>參謀部第三部第八課勤務ヲ命ス(以上特命大本營海軍部)</p> <p>海軍中佐 中村 馨</p> <p>第三課勤務ヲ命ス</p> <p>海軍省兵備局ニ於ケル事務ヲ囑託ス</p> <p>但シ報酬月額七拾五圓ヲ給シ部内限任官ヲ以テ待遇セラル</p> <p>第四課附ヲ命ス(特命海軍省兵備局)</p>
<p>司令潜水艦變更</p> <p>○ 雜 款</p>	

海軍公報(部内限) 第四千四百四十號 昭和十八年七月十五日

七四七

0683

第十九潜水隊司令ハ七月八日司令潜水艦ヲ伊號第五百十八潜水艦ニ變更セリ

○事務開始

六連艦裝員事務所ハ六月二十八日大阪市此花區櫻島日立造船株式會社櫻島造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

藤波艦裝員事務所ハ七月三日大阪市住吉區柴谷町四四番地藤永田造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務開始

高崎艦裝員事務所ハ七月五日横濱市中區綠町三丁目四番地ノ二、三菱重工業株式會社横濱造船所内ニ於テ事務ヲ開始セリ

○事務所移轉

大阪地方海軍人事部假事務所ハ七月八日大阪市北區玉江町一丁目四番地(大阪水交社隣接地)ニ移轉セリ

○正誤

本月六日附公報(部内限) 辭令欄六九九頁上段八卷正幹ノ發令月日「(六四同)」ハ「(六四同)」ノ誤

0684

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十一號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十六日(金)

○令 達

官房軍第七九三號  
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

公稱番號	船種	舊所屬	新所屬	定數	別記
第八七〇號	曳船兼交通船 (百五十噸)	館山海軍航空隊	洲ノ崎海軍航空隊	定數	
第二〇七號	内火艇 (十五米)	海軍技術研究所	相模海軍工廠	同	
第二三三號	内火ランチ (十二米)	松島海軍航空隊 (假稱)	豊橋海軍航空隊	同	
第五九七號	起重機船 (舉揚力三十噸)	徳山海軍港務部	第二海軍航空廠	同	
第五九八號	同	第二海軍航空廠	徳山海軍港務部	同	
第四六六號	曳船 (百五十噸)	馬公海軍港務部	高雄海軍港務部	同	
第一四六號	交通船兼曳船 (二十噸)	同	同	同	

公稱番號	船種	舊所屬	新所屬	定數	別記
第七九〇號	カッタ (船型)	佐世保海軍航空隊	認問海軍航空隊	同	
第八四四號	同	同	同	同	
第八七二號	同	同	同	同	

○通 牒

經物第一〇九號  
昭和十八年七月十四日  
海軍省經理局長

關係各廳長殿  
前金拂又ハ概算拂契約承認者名簿中削除ノ件通知

昭和十六年九月經物第一六三號別冊首題承認者名簿中左記ノモノハ海軍購買名簿登錄者ニ付前記承認者名簿ヨリ削除致候

記

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十一號

昭和十八年七月十六日

七四九

0685

會社名	所在地	函館船渠株式會社	函館市辨天町八八
愛國産業株式會社	川崎市藤崎町二ノ一〇八	合資會社深川鐵工所	東京都深川區新大橋一ノ一九
青木鐵工所 (青木鐵工所)	兵庫縣赤穂郡相生町相生字網ノ浦四三六〇ノ一	深見藤次郎 (深見鐵工所)	福岡市大字春吉一三五六
株式會社岡田商會	東京都深川區森下町二ノ七	合資會社増田製作所	東京都蒲田區古市町四六
岡野バルブ製造株式會社	門司市大里三三五三	株式會社丸鐵工所	東京都深川區毛利町二
合名會社颯波鐵工所	六 大阪市東淀川區中津濱通三ノ六	三菱化工機株式會社	東京都麴町區丸ノ内二ノ四
株式會社島野鐵工所	堺市老松町二ノ二〇	株式會社宮製鋼所	〇 東京都城東區南砂町六ノ四一
株式會社清水精密機械 工具製作所	東京都蒲田區古市町四七ノ一	虫印バルブ製造株式會社	大阪府西淀川區佃町一一七九
田熊汽罐製造株式會社	尼崎市濱字海地一五	株式會社日本商會製作所	大阪府東成區深江中一ノ一三
株式會社武田鐵工所	東京都蒲田區羽田本町三六五	經物第一一〇號	
中央理化工業株式會社	東京都神田區花房町二	昭和十八年七月十四日	
株式會社塚本電機製作所	二 東京都京橋區銀座西四ノ三ノ二	海軍省 經理局長	
東洋機械工業株式會社	東京都蒲田區仲六郷二ノ一四	關係各廳長殿	
南海鐵工株式會社	五 大阪市西成區粉濱本町二ノ四	前金拂又ハ概算拂契約相手方ニ關スル件	
株式會社日本工具製作所	ノ二五 大阪市東淀川區十三西之町四	通知	
		昭和十七年經物第一三五號第一第二項ニ依ル首題ノ件	
		左記ノ通承認致候	

0686

記	社名	所在地	望月辰藏 (望月鐵工所)
株式會社三榮精機製作所	東京都京橋區京橋二ノ九	清水市日之出町一ノ二〇	
株式會社新宮商行	小樽市色内町七ノ五六	油野工業株式會社 大阪市西成區津守町四三一	
須賀水壓機製造株式會社	東京都東區龜戶町六ノ八五	橫濱重工株式會社 橫濱市神奈川區守屋町一ノ三	
昭南電機株式會社	東京都大森區調布千鳥町七三	リードミシン株式會社 東京都芝區芝浦三ノ一	
合資會社田村鐵工所	秋田縣北秋田郡山瀬村岩瀬字大柳三〇	若松築港株式會社 若松市海岸通一丁目開一ノ一	
株式會社田村機械製作所	大阪市東區今橋五ノ一二	航本機密第一〇〇四六號 昭和十八年七月十五日	
東亞特殊製鋼株式會社	東京都麴町區内幸町二ノ一	海軍航空本部總務部長	
東北振興化學株式會社	東京都京橋區銀座西三ノ一ノ六	各艦隊參謀長、各鎮守府參謀長 各警備戰隊、各航空戰隊司令官 各航空隊司令、各母艦艦長 航空技術廠、各航空廠 各燃料廠總務部長、各監督長	
東亞鑄鋼株式會社	尼崎市杭瀬後野三五	航空用燃料「メタノール」ニ關スル件照會 首題ノ件左ノ通定メラレ候	
日本開發機製造株式會社	橫濱市鶴見區市場町一一五〇	依ツテ昭和十八年航本機密第二三五七號(航本部報第一七五號)所載ノ假稱甲「メタノール」假稱乙「メタノール」ノ名稱ハ廢止セラレ候	
合資會社日本鉛管製造所	東京都芝區三田四國町二番地六號		
目滿商事株式會社	滿洲國新京特別市大同大街三〇二號		

海軍公報(部内限) 第四千四百四十一號

昭和十八年七月十六日

七五一

0687

名	稱	記號	成	分	凝固點	記	事
乙	「メタノール」	乙 M	一號「メタノール」	一〇〇立+水一〇〇立	零下四〇度	一般用	
甲	「メタノール」	甲 M	一號「メタノール」	一五〇立+水五〇立	零下七〇度	空中氣溫零下四〇度以下ノ酷寒用	

(備考)

(一) 「防蝕劑」トシテ甲、乙「メタノール」共二〇〇立ニ就キ「クロム酸カリ」二〇瓦ヲ添加ス  
 (豫メ少量ノ水ニ溶解セシメ使用直前ニ混合スルモノトス)

(二) 水ノ純度ハ水道水ニ準ズ  
 一般ノ供給ハドラム罐入一號「メタノール」トシテ送付シ使用場所ニ於テ調合スルヲ例トス  
 ルモ特ニ水ノ入手不便ナル場所ニ對シテハ要求ヲ俟テ水ト混合シタルモノヲ送付ス

(三) (二) 水ノ純度ハ水道水ニ準ズ  
 一般ノ供給ハドラム罐入一號「メタノール」トシテ送付シ使用場所ニ於テ調合スルヲ例トス  
 ルモ特ニ水ノ入手不便ナル場所ニ對シテハ要求ヲ俟テ水ト混合シタルモノヲ送付ス

○ 辭令

(各通)

機械工員 井上 忠二郎  
 線路工員 黒田 誠  
 鐵道官補 三木 武夫

横須賀鎮守府附ヲ免ス(海軍省)

(各通)

海軍運輸本部附ヲ命ス 同 津田 正雄  
 同 白井 十一  
 海軍運輸本部附ヲ免ス(以上同) 同 佐藤 七治  
 軍令部員海軍少佐 井上 正夫  
 第一部第二課兼同第十二課第九課勤務ヲ命ス 同 神川 茂紀  
 同 同  
 第二部第三課勤務ヲ命ス 軍令部出仕海軍少佐 福島 勉  
 特務班班員ヲ命ス(以上軍令部) 海軍少佐 井上 正夫  
 參謀部第一部第二課兼同第十二課第四部第九課勤務ヲ命ス 同 神川 茂紀  
 參謀部第二部第三課勤務ヲ命ス(以上) 同 神川 茂紀

0688

軍部

海軍主計中尉 高松 敬治

第一輸送隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(四十五) 支出官 海軍省經理局長

○雜款

○試驗問題發送

- 第九十八期高等科砲術(大口徑、中口径)練習生
- 第九十九期高等科砲術(對空高角砲)練習生
- 第一百一期高等科砲術(對空機銃)練習生
- 第一百二期高等科測的術練習生

採用試驗問題

右七月十日左記ノ通發送濟、未着及別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部、警備府又ハ横須賀海軍砲術學校へ至急通知相成度

記

- 一 單獨試驗施行豫定ノ所轄ニハ直送
- 二 聯合試驗用ノモノハ各海軍人事部、大湊、鎮海警備府宛送付
- 三 聯合試驗參加豫定ノ艦船ニシテ行動豫定變更ノ爲聯合試驗參加不能ノ向ニ對スル分トシテ前記宛單獨試驗用問題若干送付シ置ケリ

(横須賀海軍砲術學校)

第一回普通科暗號術章付與銓衡試驗問題  
右七月九日左ノ通發送致候

- 一 單獨試驗施行ノ分 直接各部宛
- 一 聯合試驗用 各人事部長宛
- 一 應急出動艦船用

○開隊

第五〇一海軍航空隊ハ七月一日木更津航空基地ニ於テ開隊セリ

○事務開始

第三三一海軍航空隊ハ七月一日佐伯海軍航空隊ニ於テ事務ヲ開始セリ

横須賀海軍警備隊船舶警戒隊事務所ヲ左ノ通設置シ夫々事務ヲ開始セリ

横濱地方海軍運輸部内	七月三日
大阪在勤海軍武官府内	七月六日
門司在勤海軍武官府内	七月十一日
三池在勤海軍武官府内	七月十三日

○事務所復歸

築城海軍航空隊ハ六月二十五日本隊ノ事務ヲ福岡縣築

海軍公報(部内限)第四百四十一號

昭和十八年七月十六日

七五三

0689



城海軍航空隊ニ復歸セリ。  
尙當隊へ入隊者旅行先ハ福岡縣築上郡築城村

○事務所撤去  
呂號第百十潜水艦艇裝具事務所ハ七月六日撤去セリ  
前島艇裝具事務所ハ七月十四日撤去セリ

0690

(限 内 部)

海軍公報

(部内限) 第四千四百四十二號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十七日(土)

○令 達

官房人機密第一三〇號ノ二

本年官房人機密第一三〇號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十五日

海 軍 大 臣

表中採用資格ノ項「掌測的兵、」ノ下ニ「掌機雷兵、」ヲ加ヘ入校時期、採用員數及修業期間ノ部入校時期昭和十八年五月中旬ノ欄ノ下ニ左ノ如ク加フ

官房人機密第六號ノ四三 昭和十八年七月十五日 海 軍 大 臣	官房艦機密第六號ノ四三 昭和十八年七月十五日 海 軍 大 臣		各鎮守府司令長官殿 兵器簿ノ件通達		各潜水艦兵器簿運用長主管之部中左記ノ通改正ス 記		
	備考ヲ左ノ如ク改ム 採用員數中括弧内ハ内大(中)尉ヲ以テ充ツベキ員數ヲ示ス (昭和十八年四月十二日本閣參照)	約四月 約 六 月 約四月	四(一) 二三 二 一 一 二	三〇 一五	約四月 約 六 月 約四月	三 四(一) 一 一 一 二	三 四(一) 一 一 一 二
	昭和十八年五月中旬ノ欄ノ下ニ左ノ如ク加フ	一 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	一 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一
	昭和十八年十一月月中旬 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	一 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一
	昭和十八年九月中旬 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	一 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一
	昭和十九年一月中旬 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	一 一 一 一 一	三 四(一) 一 一 一	三 四(一) 一 一 一

海軍公報(部内限) 第四千四百四十二號 昭和十八年七月十七日

七五五

0691

區分	類別	品名	摘要
削除	防毒兵器	三號除毒劑	定數全部削除

官房第一七九六號

昭和十六年官房第四一六七號及昭和十七年官房第六四二〇號ハ之ヲ廢止ス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

海軍諸例  
則登載

(参照) 昭和十六年官房第四一六七號ハ五月一日入團ノ海軍兵ノ一等兵ヨリ上等兵ヘノ進級期ニ關スル件ナリ(諸例則卷二、一九二頁)

昭和十七年官房第六四二〇號ハ練習兵ノ二等兵ヨリ一等兵ヘノ進級期ニ關スル件ナリ(諸例則卷二、一九二頁)

官房第一七九七號

當分ノ間充員召集中ノ二等兵タル補充兵及第二國民兵ノ一等兵ヘノ進級ハ二等兵ヲ命ゼラレタル日ヨリ三月半ヲ經過シタルトキ之ヲ實施スルモノトス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

海軍諸例  
則登載

官房第七八六號

昭和十七年官房第四九二二號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

第三號中「前二號」ヲ「前三號」ニ改メ同號ヲ第四號トシ以下順次線下ゲ第二號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ  
三 賣拂ヒ得ル材料物品ハ海軍用トナルベキモノ又ハ甲造船ノ製造又ハ修理ニ使用スル材料物品ニ限ル

附則

(明治四十一年經四第一七五號ノ三、明治四十四年經物第四七〇號及昭和十八年經豫機密第二號ノ一〇ハ之ヲ廢止ス)

(参照) 海軍會計法規類集一卷六九三頁、同四卷四九頁、昭和十八年三月九日附海軍公報(部内限)

官房第七八八號

昭和十八年官房第三六二號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十六日

海軍大臣

「左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ」ノ下ニ「雇員備人給

0692

與規則第十四條ノ規定ニ拘ラス」ヲ加ヘ

「雇員 月給 四圓五十錢以内  
日給 十五錢以内」ヲ

「雇員、備人長 月給 四圓五十錢以内  
日給 十五錢以内」

「雇員、備人長 月給 四圓五十錢以内  
日給 十五錢以内」ニ、

「雇員 月給 三圓以内  
日給 十錢以内」ヲ

「雇員、備人長 月給 三圓以内  
日給 十錢以内」ニ、

「雇員、備人長 月給 三圓以内  
日給 十錢以内」ニ、

「雇員 月給 一圓五十錢以内  
日給 五錢以内」ヲ

「雇員、備人長 月給 一圓五十錢以内  
日給 五錢以内」

「雇員、備人長 月給 一圓五十錢以内  
日給 五錢以内」ニ改ム

附則

本令ハ昭和十八年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

(参照) 昭和十八年四月一日海軍公報(部内限)

官房人機密第三五三號

昭和十七年官房機密第一一二七五號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

表中採用員數ノ部入校期日昭和十八年八月上旬以降ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

(昭和十八年 八月上旬) (昭和十八年 十一月上旬) (昭和十九年 二月上旬)

九	九	九	九	九
九	八	八	八	八
六	六	六	六	六
三二	三二	三二	三二	三二

(昭和十七年九月七日日本欄参照)

官房人機密第三五二號

昭和十七年官房機密第一四五四八號中左ノ通改正ス

昭和十八年七月十五日

海軍大臣

表中採用員數ノ部入校期日昭和十八年九月上旬ノ欄乃至昭和十九年三月上旬ノ欄ヲ左ノ如ク改ム

海軍公報(部内限)第四千四百四十二號

昭和十八年七月十七日

七五七

0693

(昭和十八年九月上旬) (昭和十八年十二月上旬) (昭和十九年三月上旬)

一三	一三	一三
一一	一一	一一
一一	一一	一一
六	六	六
四〇	四〇	四〇

(昭和十七年十一月二十四日本欄参照)

○通牒

官房空機密第一四〇五號

昭和十八年七月十五日

海軍省副官

各鎮守府 副官殿  
各警備府

飛行機(艇)貸與ニ關スル件通知

自今飛行機(艇)ノ貸與ニ關シテハ特ニ定ムルモノノ外補用兵器、整備兵器、搭載兵器、消耗兵器ハ必要ニ依リ貸與竝ニ供給差支ナキ義ト定メラレ候

内令提  
要登載

軍需機密燃第一九七號

昭和十八年四月一日

海軍省軍需局長

關係各廳長殿

燃料練替供給單價ノ件通牒

昭和六年官房第三三五六號ニ依ル本年度燃料練替供給單價ハ前年度通ト定メ候

○辭令

乾陽丸首席通信士 福島 一馬 (昭和十六年九月三日附)

乾陽丸 船長 春光 清太郎 (昭和十七年四月二十三日附)

乾陽丸一等機關士 徳毛 中一 (昭和十七年五月六日附)

乾陽丸二等運轉士 増田 善一 (昭和十七年十月二十二日附)

乾陽丸一等運轉士 馬越 英機 (昭和十八年一月五日附)

乾陽丸次席一等機關士 和田 忠雄 (昭和十八年一月十二日附)

(各通)

0694

乾陽丸機關長 多田伊平太  
(昭和十八年一月十四日附)  
 囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(以上海軍省)

鎌倉丸 船長 栗田達也

同 一等運轉士 野澤宇一

同 二等運轉士 永山徳太郎

同 三等運轉士 菊田保太郎

同 機關長 藤村定行

同 首席一等機關士 小島廣太郎

同 次席一等機關士 富永榮

同 二等機關士 改田章平

同 同 古谷野力

同 同 川嶋稔

同 同 本中繁一

同 同 三宅勤

同 同 岩下英

同 首席電機士 只見卓

同 船醫 田中吉郎

同 事務長 甲斐徹志

囑託ヲ命シ部内限奏任官待遇トス(以上同)

(各通)

○ 雜 款

○ 正誤(濟)  
 七月九日附公報(部内限)七一六頁雜款欄第五三二海  
 軍航空隊ノ事務開始「七月七日」ハ「七月一日」ノ誤

海軍公報(部内限) 第四千四百四十二號

昭和十八年七月十七日

七五九

0695

(限 内 部)

海軍公報 (部内限) 第四千四百四十三號

海軍大臣官房

昭和十八年七月十九日(月)

○通牒

艦本機密第一號ノ九三六五

昭和十八年七月十三日

海軍艦政本部總務部長

關係各廳長殿

二十五耗機銃曳跟通常彈藥包二型性能ノ件通知

今般首題彈藥包供給セラルルコトト相成候處其ノ主要性能等左記ノ通ニ有之

記

- 一 曳跟(秒時六秒以上)後射距離三〇〇〇米乃至四一〇〇米(秒時七秒乃至十二秒)ニ於テ自爆シ味方陣地等ニ對スル被害ヲ少ナカラシム
- 二 炸藥量ハ從來ノ曳跟通常彈ノ約八割
- 三 差當リ要地防空用トシテ供給ス

海軍公報(部内限)第四千四百四十三號

昭和十八年七月十九日

七六一

航本機密第一〇二九八號

昭和十八年七月十七日

海軍艦政本部總務部長

海軍航空本部總務部長

關係各廳長殿

飛行機用雷擊關係兵器修理ニ關スル件照會

達第一二五號及軍務機密第三九九號通知ニ關聯シ首題兵器ハ海軍艦政本部ヨリ海軍航空本部ニ移管セラレ候處之ガ修理等ニ關シテハ當分ノ間從來通艦本系工作應ニテ施行相成度

追テ海軍航空廠艦船部隊等ヨリノ修理請求手續申書類ニハ從來ノ「水雷長主管」ヲ「飛行長主管」ナル字句ヲ使用セシメラレ候ニ付了知相成度

○辭令

南西方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

吉住留五郎

但シ報酬年額千貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(七〇〇海軍省)

立山丸一等機關士 淺見 拾吉

囑託(部内限奏任官待遇)ヲ命ジ報酬年額千五百五拾圓ヲ給ス(七五〇同)

田中 信造

南西方面艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

江原 奎恵

第二海軍衣糧廠岡山支廠ニ於ケル教務ヲ囑託ス

但シ報酬年額八百四拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一四〇同)

永山 俊三

南西方面艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

林 不二雄

南西方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二百二海軍經理部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

千貳拾圓

吉住留五郎

(各通)

千八百貳拾圓

戸川 源司

南西方面艦隊ニ於ケル事務囑託ヲ解キ第二南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

南洋廳熱帶産業研究所技師 蘆澤 安平

マカツサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス(以上一四〇同)

本田 敬之

(各通)

齋藤 潤

南西方面艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(五〇〇同)

橋本 國雄

海軍經理學校憲法軍制學教授囑託

千八百圓

末次 平八

河村 二十三

乾 信明

佐々木 重藏

0697



海軍經理學校財政學教授囑託

千六百貳拾圓

井藤 半彌

海軍經理學校柔道教授囑託

千八拾圓

三船 久藏

(通各)

海軍經理學校劍道教授囑託

千八拾圓

中山 博道

海軍經理學校糧食調理教授囑託

參千圓

北川 敬三

海軍經理學校習字教授囑託

千貳拾圓

田中 光三

自今報酬年額(各頭書ノ通)ヲ贈(給)與ス

別所 二郎藏

第五艦隊業務兼千島方面特別根據地隊ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一六〇同)

飯田 鐵次

セラム民政部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一六〇同)

軍令部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

本田 親喜

但シ報酬年額千參百圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一七〇同)

第四艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

鈴木 貞雄

但シ報酬年額千六百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

池田 金造

但シ報酬年額參千五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一六〇同)

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千四百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

神沢 音八郎

マカッサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千五百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一六〇同)

小杉 速

第五艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解キ大湊警備府ニ於ケ

マカッサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千五百五拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上一六〇同)

小田 積美

第五艦隊ニ於ケル業務囑託ヲ解キ大湊警備府ニ於ケ

海軍公報(部内限) 第四千四百四十三號

昭和十八年七月十九日

七六三

0698

ル業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

星崎 周平

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上 同)

(各通) 吉田 敬止  
佐藤 石藏

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

野澤 治作

ラバウル海軍運輸部ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額貳千拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通) 貳千八百七拾圓 赤松 稔  
貳千五百貳拾圓 永山 規矩雄

海南海軍特務部ニ於ケル業務ヲ囑託ス

但シ報酬年額(各頭書ノ通)ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

竹内 英雄

マカツサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス(以上 同)

第四艦隊ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(同)

細川 悟

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ解キ第一南遣艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託ス

但シ報酬年額千八百貳拾圓ヲ給シ部内限奏任官待遇トス

(各通) 増田 即定  
西村 義人

第四海軍建築部土木業務ヲ囑託シ解キ海軍施設本部ニ於ケル土木業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

中野 吉時

第四海軍建築部電氣業務ヲ囑託シ解キ海軍施設本部ニ於ケル電氣業務ヲ囑託ス(報酬 如故)

加藤 源治

海軍省南方政務部ニ於ケル事務ヲ囑託シ解キマカツサル研究所ニ於ケル事務ヲ囑託ス(報酬 如故)

熊野 忠雄

南西方面海軍民政府ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上 同)

陸海軍 (除航空) 技術委員會委員ヲ命ス(註同)

岡 修一郎

横須賀海軍工廠機關實驗部ニ於ケル業務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

東京帝國大學教授 田中 豊

同 山崎 匡輔

同 濱田 稔

東京工業大學教授 田邊 平學

元鐵道官 藤井松太郎

同 渡邊 貫

北澤 五郎

辻 二郎

東京工業大學助教授 藤岡 通夫

西田 正孝

海軍施設本部ニ於ケル研究業務囑託ヲ解ク

澄田 勘作

岩崎 富久

(各通)

海軍施設本部ニ於ケル土木業務囑託ヲ解ク

元土木事務官 眞木 英男

海軍施設本部ニ於ケル事務囑託ヲ解ク

元内務技師 河口 協介

六所 文三

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

大木 説喜泰

和田 完二

支那方面艦隊ニ於ケル事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス

北海道廳技師 廣田 實

海軍省事務ヲ囑託ス

税關事務官 長谷井輝夫

海軍省事務ヲ囑託ス

海軍航空技術廠發動機部研究業務囑託

沼 知 福三郎

兼海軍航空技術廠支廠雷撃部ニ於ケル研究業務ヲ囑託ス(報開待遇如故)

稲山 嘉寛

(各通)

馬場 俊藏

渡邊 一良

海軍省事務ヲ囑託シ部内限奏任官待遇トス(以上

註同)

0700

グラム民政部長海軍中佐 保村 禎一

海軍軍法會議法第七十三條ノ二ニ依リ海軍司法警察官トシテ勤務スル者ニ指定ス(註明海軍大臣)

通信部特務班勤務ヲ命ス(註明大本營海軍部) 海軍大尉 松隈 正雄

通信部特務班勤務ヲ命ス(註明同) 海軍少佐 飯田 久吉

通信部特務班勤務ヲ命ス(註明同) 海軍大尉 谷口 敬二

通信部特務班勤務ヲ命ス(註明同) 海軍少佐 福島 勉

通信部特務班勤務ヲ命ス(註明同) 海軍大佐 栗原 悦藏

第四課勤務ヲ命ス (各通) 同 末澤 慶政

第二課勤務ヲ命ス (各通) 同 柴 勝男

第一課勤務ヲ命ス(以上註明海軍省軍務局) 同 吉田 英三

第百二十一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註明支出官)

海軍省經理局長)

同 近藤 道生

第二三一設營隊ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費臨時分任出納官吏ヲ命ス(註明同)

セラム民政部ニ要スル給與及其ノ他ノ經費支拂ノ爲艦隊經費分任出納官吏ヲ命ス

同 海軍主計少佐 兒玉 茂

右同分任出納官吏ヲ免ス(以上註明同) 同 村岡 達志

(各通) 海軍少佐 飯田 美照(通校) 海軍大尉 松井 宗明(通校)

同 村上 治重(霞空) 二月二十三日官房艦機密第八二三號假稱三式電信機實驗委員ヲ命ス

(各通) 海軍大佐 橋本 宙二(艦本) 海軍少佐 太田 康雄(通校)

同 萩原 未牟夫(通校) 二月二十三日官房艦機密第八二三號假稱三式電信機實驗委員ヲ免ス(以上註明海軍艦政本部)

0701